

全国道路街路交通情勢調査（道路交通センサス）
一般交通量調査特記仕様書

令和 7 年 7 月

福 島 県

全国道路街路交通情勢調査（道路交通センサス）
一般交通量調査 特記仕様書

第 1 章 総則

第 1 条 適用範囲

1. 本特記仕様書は、全国道路街路交通情勢調査（道路交通センサス）一般交通量調査に適用する。
2. 本業務は、本特記仕様書によるほか「令和 7 年度全国道路街路交通情勢調査（道路交通センサス）一般交通量調査実施要綱（交通量調査編・道路状況調査編・旅行速度調査編）」及び福島県土木部制定「共通仕様書（業務委託編）」によるものとする。
3. 本特記仕様書に記載してある甲とは発注者をいい、乙とは受注者をいう。

第 2 条 受託者の業務

1. 乙は、契約の履行に当たっては、本業務の意図及び目的を十分に理解し、最高の技術を発揮するように努めなければならない。
2. 本特記仕様書及び添付図書は、本業務に必要な諸元及び資料のうち主要な事項のみを示したものであるから、これらに記載されていない事項であっても、技術上必要と認められるものについては、責任をもって充足しなければならない。
3. 本業務の実施にあたっては、諸法規を遵守し作業の安全と円滑を図るとともに、担当職員と密接な連絡をとり業務を遂行しなければならない。

第 3 条 機密の厳守

乙は本業務に関するすべての事項について、機密を厳守し、他に漏らしたり転用したりしてはならない。

第 4 条 業務上の質疑

本業務において、不明な点又は疑義を生じた場合は、速やかに甲の指示を受けるものとし、その時間を逸して、手戻りにならないように注意しなければならない。

第 5 条 業務計画書

乙は、本業務契約締結後、14 日以内に業務計画書を作成し、担当職員に提出するものとする。

第 6 条 契約の変更

本業務の内容は、別紙数量総括表の通りとするが、数量に変更が生じた場合は、契約変更の対象とする。

第 7 条 資料等の貸与及び返還

本業務上必要な図面、資料のうち甲の保有するものについては、貸与するものとするが、その取り扱いについては十分注意するものとする。

第 2 章 業務内容

第 1 条 業務の目的

本業務は、令和 7 年 9 月より行われる全国道路街路交通情勢調査（道路交通センサス）の一環として、全国の道路の交通量及び道路現況を調査し、道路の計画、建設、維持修繕、その他の管理などについての基礎資料を得ることを目的に実施する。

第 2 条 調査の方針

本調査は、道路状況調査、平日・休日の 12 時間交通量調査、平日・休日の 24 時間交通量調査、平日・休日の旅行速度調査から構成される。調査は、調査対象路線を調査区間に分割し、この区間について道路の状況及び旅行速度について調査を行う。また、調査区間を代表する地点を設定し、この地点を通過する交通量について調査する。

第 3 条 調査対象路線

調査は原則として、道路状況調査及び平日交通量調査については一般県道以上の全路線を対象に、休日交通量調査は休日交通量が卓越している等の道路を選定して実施する。

平日旅行速度調査については地域高規格道路計画路線を対象とし、休日旅行速度調査は休日交通量調査実施区間を調査する。別途指定路線とする。

● 調査単位区間及び交通量観測地点の設定

調査対象路線を調査対象区間と調査非対象区間に区分する。調査対象区間は、交通量及び道路条件の著しい変化のない区間（以下、「観測相当区間」という。）に分割する。更に、観測相当区間は 1 つ以上の「調査単位区間」に分割される。調査単位区間は交通量観測地点を設けるものと設けないものがある。前者は「観測区間」であり、後者は「非観測区間」である。観測区間では、調査単位区間ごとに、一箇所（複断面区間では二箇所）の観測地点を原則としてその区間の代表断面に設定し、平日にこの地点を通過する昼間 12 時間の交通量を秋季に 1 回観測する。また、観測地点の一部は 24 時間観測を行う。

原則として、昼間と夜間で観測地点は変えないものとする。

第 4 条 作業計画

本業務を実施するにあたり、業務内容を把握のうえ、作業計画を立案するものとする。

第 3 章 調査方法

第 1 条 基本方針

道路状況調査は、調査単位区間ごとに所定の事項について行う。

交通量調査は、観測員による人手観測は秋季の平日・休日に各々 1 日行うものとし、人手観測の観測時間は、午前 7 時から午後 7 時までの 12 時間とするが、24 時間観測地点における観測は、原則として平日については午前 7 時から翌日午前 7 時までの 24 時間、休日については午前 0 時から翌日午前 0 時までの 24 時間とする。機械観測の観測時間は監督員と協議し決定すること。

旅行速度調査は実走行により、平日は朝又は夕方いずれかのラッシュ時間帯の混雑方向に、休日はピーク時間帯（1 日の中で最も混雑する時間帯）の混雑方向に所定の事項について行う。

第 2 条 交通量調査

1) 交通量調査日

交通量調査は年間の平均的な交通量を把握するために行われるものであり、交通量の変動が少ない秋季に観測を行う。平日調査・休日調査ともに、9 月～11 月の中で選定してよいが、常時観測交通量データなどを用いて季節的な影響を考慮した調査日の設定を行い、寒冷地においては積雪などの影響のない範囲で調査を実施すること。なお、詳細については監督員と協議し決定すること。

● 平日調査

火曜日、水曜日、木曜日に実施する。祝祭日及びその前後の日、5、10 日の付く日、及び台風等の異常気象の場合、その他通常と異なる交通状態が予想される日を選んではならない。

● 休日調査

日曜日に実施する。連休及び台風等の異常気象の場合、その他通常の休日と異なる交通状態が予想される日を選んではならない。

2) 交通量観測箇所

別途、監督員の指示によるものとする。

3) 交通量調査の方法

①調査は、人手観測又は機械観測とする。

②調査の方法は、「令和7年度全国道路街路交通情勢調査（道路交通センサス）一般交通量調査実施要綱（交通量調査編）」によるものとする。

③調査の際、以下について十分注意すること。

- ・観測実施に当たり、観測員が私有地に立ち入り観測する場合は、所有者または、関係者から事前に了解を得た上で、十分な協調を保ち調査が円滑に進捗するよう努めること。

- ・観測中に観測員が所用で現場を離れる場合は、通過中の一団が途切れている間に班長または、他の観測員に引き継ぎ、調査に支障を及ぼさないように努めること。

- ・観測時刻（開始及び集計）の統一化を図るため、班長が時刻を確認し、観測員に伝え一斉に開始及び集計を行うこと。

- ・観測中一時雨天の場合は、原則として雨具（レインコート）を着用し観測するが、駐車スペースがある観測地点は状況に合わせ、車内から観測することを認める。

第3条 旅行速度調査

1) 旅行速度調査日の設定

平日調査・休日調査ともに、9月～11月の中で任意に選定して良いが、季節的な調査日の設定を行い、寒冷地においては積雪などの影響のない範囲で調査を実施すること。

●平日調査

火曜日、水曜日、木曜日に実施する。祝祭日及びその前後の日、5、10日の付く日、及び台風等の異常気象の場合、その他通常と異なる交通状態が予想される日を選んではない。

●休日調査

日曜日に実施する。連休及び台風等の異常気象の場合、その他通常と異なる交通状態が予想される日を選んではない。

2) 旅行速度調査の方法

調査は、混雑時間帯の混雑方向に走行して各区間の起終点通過時刻を計測する。

3) 調査時間帯

平日は朝または夕方のラッシュ時間帯（午前7時～午前9時、午後5時～午後7時）の中で最も混雑している時間帯とし、休日は1日の中で最も混雑しているピーク時間帯とする。調査方向は、上り下りのうち混雑している1方向とする。

4) 調査回数

調査単位区間ごとに、混雑方向に1回行えばよい。ただし、代表沿道状況（区間内での沿道状況別延長のうちもっとも長い沿道状況）が人口集中地区（DID）の区間については平日及び休日とも3回観測するものとする。

5) 走行方法

「流れに沿った」走行とする。

6) 調査手法の変更

旅行速度調査には、実査とプローブ調査があるが、各国道事務所と調整の結果、当初設定した調査手法と異なる場合、変更の対象とする。

第4章 成果品

成果品は、下記のとおりとする。

- | | |
|--------------------------|--------------|
| 1) 道路状況総括表 | 1 部 (事務所) |
| 2) 交通量調査原票 | 1 部 (事務所) |
| 3) 旅行速度計測原票 | 1 部 (事務所) |
| 4) 交通量図 (1/50,000 管内図) | 1 部 (事務所) |
| 5) 調査状況写真 (交通量調査) (代表地点) | 1 部 (事務所) |
| 6) その他、監督員の指示したもの。 | 1 部 (事務所) |
| 7) 上記 1～6 の電子データ | 2 枚 (事務所・本庁) |